

国立駅南口駅前広場

イメージパース報告会

2026(令和8)年

6/28 日

時間：14:30～16:30

場所：FSX アリーナ

(くにたち市民総合体育館)
2階第1・第2会議室

目次

1. これまでの経過と本日について	1
2. コンセプト	2
3. 設計方針	2
4. 現況平面図	3
5. 国立駅南口駅前広場デザインイメージ説明会プラン	3
6. 国立駅南口駅前広場修正全体平面図	4
7. 各施設のデザインに関する考え方	5
8. イメージパース	6

■ 1. これまでの経過と本日について

皆様にご意見をいただき、取りまとめた基本設計プランからさらに検討を進め、実施設計を進めています。

基本設計プランでご提示しました「コンセプト」「設計方針」をベースに各エリアの整備後のイメージをパースで示します。

基本設計

- ▼25/10/06 市民説明会
- 25/11/16 市民説明会
- 25/12/22 検討状況報告会



■ コンセプト

みんなでつくる 100 年の広場
みどりのもとに集い、まちを育む

→p2

■ 設計方針

→p2

全体
方針

景観
のデザイン

交通
のデザイン

広場
のデザイン

環境
のデザイン

共創
のデザイン

■ 国立駅南口駅前広場 基本設計プラン



実施設計

- ▼26/03/29 デザインイメージ説明会



■ 国立駅南口駅前広場 デザインイメージ 説明会プラン

→p3

1 トイレ・倉庫について

→東側広場に倉庫を設置します。

2 円形公園について

→円形公園については、池ではない水環境とします。

3 地植えの緑について

→地植えの植栽の面積を広げました。

4 一般車乗降場について

→旧国立駅舎前の中央から西側の区間は送り迎えで停車可能な場所を設けています。

5 ロータリー及び大学通り接続部の1車線化について

→現在のプランのまま1車線の計画とします。



■ 各施設のデザインに 共通する考え方

■ 国立駅南口駅前広場 を構成する施設

■ 国立駅南口駅前広場 を構成する各施設の デザインイメージ

- ・植栽
- ・ベンチ・サイン等
- ・上家
- ・照明
- ・舗装

■ 各エリアの デザインイメージ

- ・東側広場
- ・西側広場
- ・東側歩道
- ・西側歩道
- ・円形公園

- ▼26/06/28 イメージパース報告会（本日）

■ 国立駅南口駅前広場修正全体平面図

→p4

1 桜について

→既存の桜については、できる限り保全していく方針としていましたが、市内で発生した倒木を受け、桜の景観を次世代へ引き継ぐために整備に合わせて植替えを進めます。

2 上家について

→通行上の支障とならない構造に見直します。

3 地植えの緑について

→可動式植栽を取りやめ、地植えの緑を増やします。

■ 国立駅南口駅前広場を構成する 各施設のデザインの考え方

→p5

- ・植栽
- ・ベンチ・サイン等
- ・上家
- ・照明
- ・舗装

■ イメージパース

→p6~

- ・全体鳥瞰
- ・東側広場
- ・東側歩道
- ・旭通り側歩道
- ・大学通り～旧国立駅舎
- ・富士見通り側歩道
- ・西側歩道
- ・西側広場
- ・旧国立駅舎～大学通り
- ・夜景（東側歩道）

実施設計
後に最終
イメージ
をご報告

2. コンセプト



大正 15 (1926) 年当時の国立大学町の写真
写真：郷土文化館所蔵

みんなでつくる 100 年の広場

みどりのもとに集い、まちを育む



約 100 年前、国立駅と共に大学町が生まれました。三角屋根の駅舎、水禽舎のある円形公園が特徴的な駅前広場
は人々が集まる場所でした。これらは時と共に車中心の空間に変わっていきました。

現在、旧国立駅舎の再築を機に、国立駅前を人中心の空間とする機運が高まっています。そこで、駅前広場から
大学通りにつながるみどりと人の空間をつくり、そこに集まる動植物も含め、それぞれが居心地よく過ごせる駅前
広場をコンセプトとしました。

そして、そこに人々が関わり、様々な活動を通して考え学ぶ場へと成長する国立駅南口駅前広場を目指します。

3. 設計方針

全体 方針

- 1 みどりや人の空間を増やし、憩いやにぎわいが生まれ、人や生き物がゆっくりと過ごせる広場とします。
- 2 大学町として成長してきたまちの歴史や文化を継承します。
- 3 人の動線、緑、生き物のネットワークやにぎわいが周囲につながり、まちの回遊性を高める広場とします。
- 4 時間帯や季節による多様な使われ方、イベントや災害時利用などにも柔軟に対応できる広場とします。
- 5 ソーシャルインクルージョンの考え方に基づき、様々な人に使いやすいユニバーサルデザインの広場とします。

景観 のデザイン

- 1 大学通りから旧国立駅舎への眺望を尊重します。
- 2 大学通り、富士見通り、旭通りの3つの軸を活かします。
- 3 整備当初から残る円形公園の形状などを継承したデザインとします。

交通 のデザイン

- 1 交通機能を最適化し、コンパクトに配置します。
- 2 歩行者・自転車・車両利用者も使いやすく、安全・安心なデザインとします。
- 3 耐久性が高く、長く使用できる素材を用います。
- 4 一時的に車両通行路を切り替えることにより、大イベント時などに広い歩行空間を確保できるデザインとします。

広場 のデザイン

- 1 沿道と一体となって、憩いやにぎわいが生まれるデザインとします。
- 2 広場全体で憩いやにぎわいが感じられるよう、各空間同士が見通せるデザインとします。
- 3 夜間でも安全・安心な場所となるよう、適切に照明を配置します。

環境 のデザイン

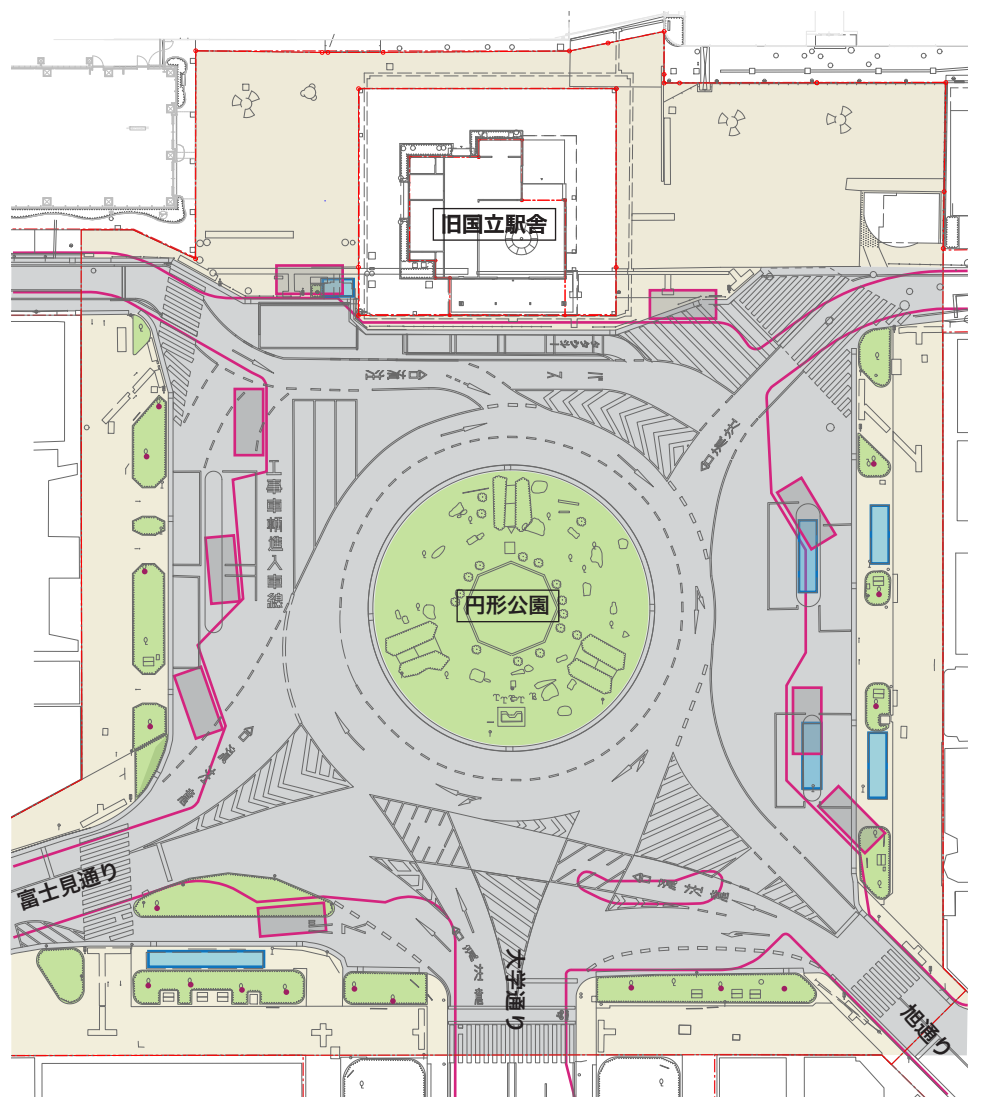
- 1 武蔵野の気候・風土にあった植栽を増やし、大学通りのみどりにつながるデザインとします。
- 2 人々が木陰や四季の緑を楽しめるよう、駅前広場全体で効果的に緑を配置します。
- 3 既存のサクラをできる限り長生きさせつつ、将来的なサクラの更新も考慮したデザインとします。
- 4 雨水浸透を促す機能をもつグリーンインフラを活用し、災害対策と環境改善の両立を目指します。
- 5 維持管理やコストに配慮しつつ、素材のリサイクルや CO2 削減など SDGs に資するデザインとします。

共創 のデザイン

- 1 地域の人々や来訪者がそれぞれに合った様々な形で広場に関わることができ、愛着を持てるデザインとします。
- 2 人々が使いやすい広場とするため、多様な人々と一緒に広場のデザインを考えます。
- 3 寄せられた意見やワークショップの成果を踏まえたデザインとします。
- 4 社会実験などで使い方を試しながら、様々な活動を通して考え・学ぶ場へと成長する広場を目指します。

各施設のデザインに
関連するキーワード

■ 4. 現況平面図



--- 道路境界線 現況歩道 現況上家位置 --- 計画歩車道境界・現況の桜の位置
 現況車道 現況植栽 計画上家位置

0 5 10 20 50m S=1/800

■ 5. 国立駅南口駅前広場デザインイメージ説明会 (2026/03/29 開催) にて説明したプラン



※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

■ 6. 国立駅南口駅前広場修正全体平面図

修正3 地植えの緑について

→可動式植栽はとりやめ、地植えの緑を増やします。

- ・東側広場と同様に円滑な歩行者動線確保した上で、地植えの緑を増やします。

交通4 一般車停車スペース

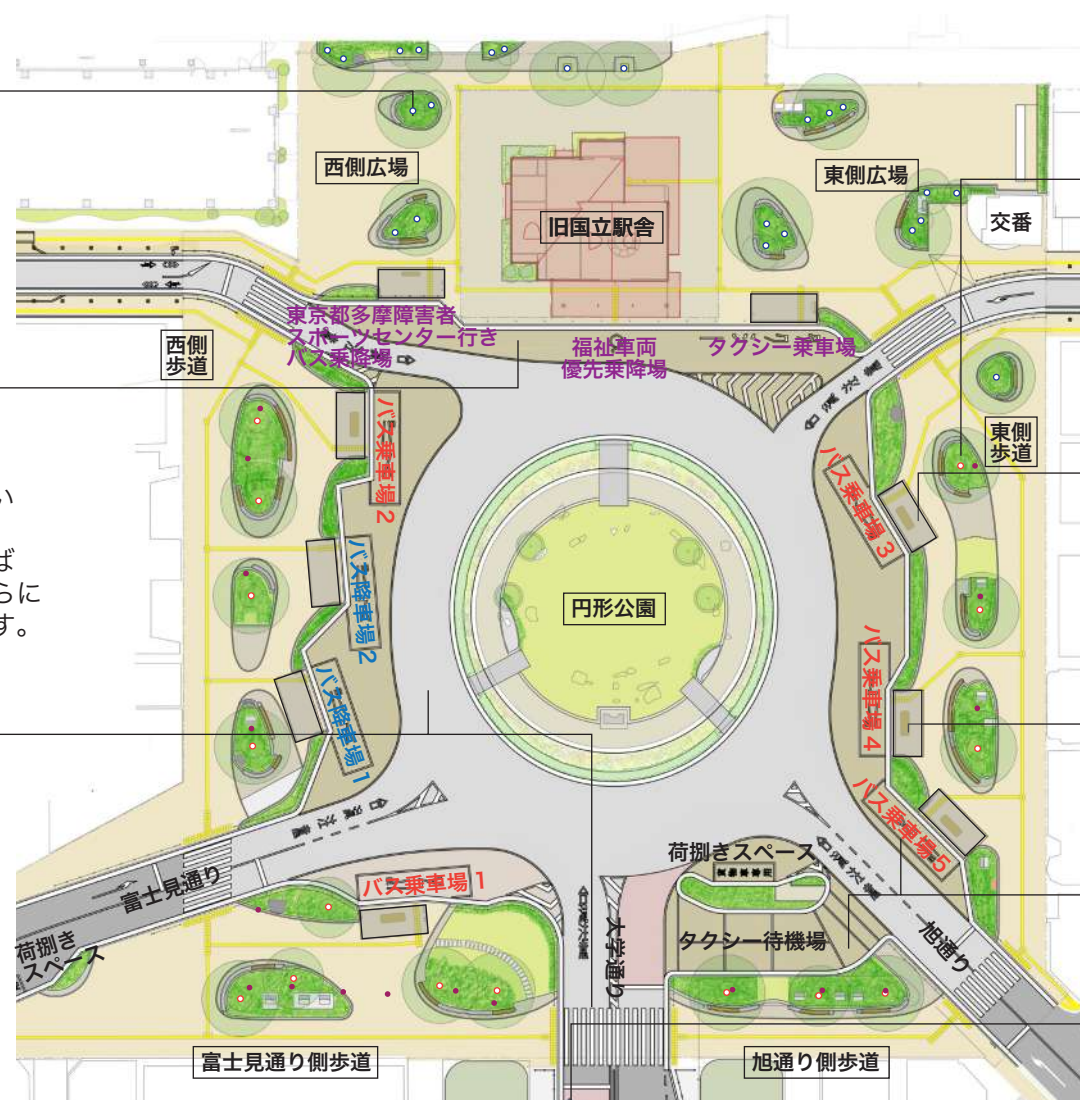
→旧国立駅舎の中央から西側区間に送り迎えで停車可能な場所を設けます。

- ・福祉車両が優先的に使えるように、おもしろいやりを持ってご利用ください。
- ・停車扱いとなる必要最小限の乗降であれば一般車両についても運用できます。こちらについて、わかりやすい周知をしていきます。

交通5 ロータリー及び大学通り接続部の1車線化について

→現在のプランのまま1車線での計画とします。

- ・ロータリーの1車線化について
→複数車線で輻輳が生じているロータリーを1車線化とし、安全で分かりやすい車線運用となります。
- ・大学通りの1車線化について
→1車線化するのはロータリーとの接続部のみに、接続部より南側の道路は2車線のままの運用です。
- ・安全に横断歩道を渡れるように、横断距離を短縮します。



・ 現況の桜の位置

・ 植替える桜
(現況とほぼ同じ位置に植替え ※ただし現況の富士見通り側歩道については樹木が密に植栽されており、健全な育成のため、植栽間隔を広げます。)

・ 新植樹木

交通に関する計画のポイント
(これまでの説明と同じ)

国立駅南口駅前広場デザイン
イメージ説明会 (26/03/29 開催)
プランからの主な修正点

修正1 桜について

→既存の桜については、できる限り保全していく方針としていましたが、市内で発生した倒木を受け、桜の景観を次世代へ引き継ぐために整備に合わせて植替えを進めます。

修正2 上家について

→通行上の支障とならない構造に見直します。

- ・上家の形状についてはすべて統一し、通行上の支障にならないように、車道側に柱を配置する構造とします。

交通1 歩道から直接乗降可能なバス乗降場

→全てのバス停で、歩道から直接乗降できるようにします。
(島式バス乗り場の廃止)

交通2 交通機能のコンパクトな配置

→バス、タクシー乗車場等を無駄なく、コンパクトに配置します。

交通3 自転車の押し歩き

→自転車走行は横断歩道手前までとし、その先は押し歩きとします。

※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

■ 7. 国立駅南口駅前広場を構成する各施設のデザインの考え方

植栽

- ・市内で発生した倒木を受け、桜の景観を次世代へ引き継ぐために整備に合わせて植替えを進めます。これまでの桜のイメージがあまり変わらないよう適切に桜の種類を選びます。
- ・効果的に緑を感じられ、日陰を生み出す植栽配置とします。
- ・武蔵野の風土にあった樹種を選び、高木、中木、低木、地被類をバランスよく配置します。
- ・樹木の根を守るための入れない植栽帯と、部分的に入れる植栽帯を設けます。
- ・雨水が地下に貯留浸透できるような植栽帯（アメニワ）を設けます。


入れない植栽のイメージ例
(立川市事例)

入れる植栽のイメージ例
(立川市事例)

ベンチ・サイン等

- ・形や素材の種類を絞り、シンプルなデザインとします。
- ・ユニバーサルデザインの考え方に基いたデザインとします。視覚にしょうがいのある方が使いやすい点字誘導ブロック、車椅子やベビーカー利用者が同伴者と並んで座れるベンチを配置します。
- ・座れる場所を多く設け、多くの人が憩えるようにします。
- ・使用する場所に応じて耐久性の高い素材や温かみを感じられる素材を適材適所に用います。
- ・個々のベンチ・サイン等の色彩は、旧国立駅舎や緑を引き立てる色とし、面積が大きいものには温かみのある暖色系の色を、サインや柵など面積の小さいものはグレー系の色とします。


ベンチ素材のイメージ例
(港区事例)

サインのイメージ例
(牛久市事例)

上家

- ・上家は旧国立駅舎を引き立てるシンプルな形とします。
- ・大学通りとつながるみどりと人の空間を作るために、温かみを感じられる木材を使用します。木材を使うことでCO2削減にもつながります。
- ・雨がかかる屋根上面や柱には耐久性の高い素材を用い、雨がかからない屋根の内側には木材を用います。
- ・上家の柱や屋根材の色彩は、ダークグレー系の色とします。


上家のイメージ例
(長崎市事例)

照明

- ・旧国立駅舎のライトアップを引き立てるような照明計画とします。新設照明はシンプルな形状のものとし、必要な場所に必要な明るさを確保します。既存の商店会街路灯は可能な限り再利用します。
- ・上家の下はほんのりと明るくし、必要な明るさを確保します。
- ・街路空間を美しく見せる演出照明（ベンチ下の間接照明など）も配置します。
- ・明かりを電球色に統一し、駅前広場全体で温かみを感じられる夜間景観とします。
- ・新しく設置する街路灯本体の色は、ダークグレー系の色とします。


上家照明のイメージ例
(富山市事例)

ベンチ照明のイメージ例
(富山市事例)

車道照明のイメージ例
(国立市事例)

舗装

- ・車道では走行車線と停車帯を、歩道では動線と滞留部分を視覚的に区分します。
- ・歩道舗装には、明るく温かみを感じられるページュ系の色の舗装を用います。
- ・車道舗装には、耐久性が高い素材を用います。歩道舗装には、透水性能を持った素材を用います。


車道舗装のイメージ例
(成田市事例)

歩道舗装のイメージ例
(中央区事例)

■ 8. イメージパース

全体鳥瞰



※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

東側広場

- ・ 駅を出て最初に出会う広場。木陰の下のゆったりとした憩いの空間となります。旧国立駅舎と一体的に様々なイベントに利用できます。
- ・ 広場の東側にはイベント用備品などを収納できる倉庫を設置します。
- ・ 初めて国立駅に訪れた方にも分かるよう、駅舎のすぐ近くに総合案内サインを設置します。



サインのイメージ例（牛久市事例）
・ 視線が通るように高さを抑えます。



ベンチ素材のイメージ例（港区事例）
・ 耐久性の高い素材を用います。



歩道舗装のイメージ例（中央区事例）
・ 補修交換が容易で、水が浸透しやすい透水性ブロック舗装とします。
・ 温かみを感じられるベージュ系の色とします。



植栽地のイメージ例（立川市事例）
・ 高木、中木、低木、地被類を組み合わせます。
・ 人の侵入を抑止し、植栽の生育環境を守ります。

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

東側歩道

- ・歩道が約 1.5 倍に広がります。十分な広さの通行スペースに加え、桜の下に滞留空間が生まれます。
- ・バスを待つ人がちょっと立ち寄り、座ることができる憩いの場となります。
- ・将来的な活動によって、沿道の商業施設と一体となったにぎわいが生まれる空間となります。



上家のイメージ例
(長崎市事例)

- ・雨がかかる屋根上面や柱は耐久性の高い素材を用います。
- ・雨が掛からない屋根の内側には温かみを感じる木材を用います。



ベンチ素材のイメージ例
(港区事例)

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

旭通り側 歩道

- ・旭通り側歩道からは旧国立駅舎が印象的に見える場所になります。
- ・木陰の下で憩える場所となります。



※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。



ベンチ素材のイメージ例
(港区事例)



歩道舗装のイメージ例
(中央区事例)

- ・補修交換が容易で、水が浸透しやすい透水性ブロック舗装とします。
- ・温かみを感じられるベージュ系の色とします。

大学通り～ 旧国立駅舎

- ・これまで通り大学通りから旧国立駅舎が印象的に見えます。
- ・円形公園の中央部は草地の広場となります。普段は入れませんが、イベントなど特別な時に入ることができる場所となります。
- ・これまで植っていたウメの木は円形公園内で移植し、旧国立駅舎を引き立てます。
- ・円形公園の周囲には雨水が地下に貯留浸透できるような植栽帯（アメニワ）を設けます。
- ・時計塔、国旗掲揚塔、文教地区看板はこれまで通り円形公園の中に残します。



パース
アングル方向



時計塔・国旗掲揚塔
・現在と同様の位置に設置します。



ウメの木
・現況のウメの木を一部円形公園の中に移植します。

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

富士見通り側 歩道

- ・歩道が大きく広がり、大学通りから駅前広場の西側歩道まで通りやすい動線に生まれ変わります。
- ・旧国立駅舎を眺めることができる緑の空間を設けます。
- ・木陰の下で憩える場所となります。



上家のイメージ例
(長崎市事例)

- ・雨がかかる屋根上面や柱は耐久性の高い素材を用います。
- ・雨がからない屋根の内側には温かみを感じる木材を用います。



入れる植栽のイメージ例
(立川市事例)

- ・部分的に人が立ち入ることができるようにします。

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

西側歩道

- ・歩道が約 1.5 倍に広がります。十分な広さの通行スペースに加え、桜の下に滞留空間が生まれます。
- ・バスを降りた人がちょっと立ち寄ったり、腰掛けたりすることができる憩いの場となります。
- ・将来的な活動によって、沿道の商業施設と一体となったにぎわいが生まれる空間となります。



現況とほぼ同じ
位置に植替える桜
(10年後のイメージ)

バス
降車場



上家のイメージ例
(長崎市事例)

- ・雨がかかる屋根上面や柱は耐久性の高い素材を用います。
- ・雨が掛からない屋根の内側には温かみを感じる木材を用います。



歩道舗装のイメージ例
(中央区事例)

- ・補修交換が容易で、水が浸透しやすい透水性ブロック舗装とします。
- ・温かみを感じられるベージュ系の色とします。

西側広場

- ・中央の広いスペースの周りに木陰の憩い空間を配置します。
- ・高架駅舎前では様々なイベントが可能な広場となります。
- ・旧国立駅舎の西側にはかつての国立駅の記憶を継承するため、オオカンザクラを植樹します。



オオカンザクラ
(将来のイメージ)

東京都多摩障害者
スポーツセンター行き
バス乗降場

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計
や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。



かつて国立駅傍に咲いた
オオカンザクラ
(平成 15 年頃)



ベンチ素材のイメージ例
(港区事例)

旧国立駅舎 ～大学通り

- ・円形公園内のウメの木を再配置することで旧国立駅舎から大学通りの景観が印象的に見えます。
- ・大学通りから旧国立駅舎に連なるように緑を確保します。



時計塔・文教地区看板
・現在と同様の位置に設置します。

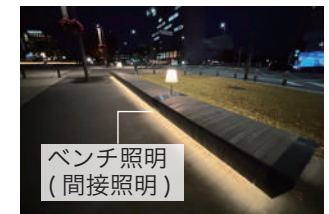


ウメの木
・現況のウメの木を一部円形公園の中に移植します。

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

夜景

- ・既存の商店会街路灯に加え、上家の照明やベンチの間接照明を設置し、ライトアップされた旧国立駅舎を引き立てつつ、夜の景観を演出します。
- ・電球色のあかりで統一し、温かみのある空間とし、必要な明るさを確保します。
- ・照明灯本体の色は、昼間でも旧国立駅舎や周囲の緑を引き立てるグレー系の色とします。



上家照明・ベンチ照明
(間接照明) のイメージ例
(富山市事例)

- ・電球色のあかりで統一します。



既存商店会街路灯
・商店会街路灯は可能な
限り再利用します。

※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計
や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

現況写真

2020年4月撮影



みんなでつくる 100 年の広場
みどりのもとに集い、まちを育む



※本パースは現時点での整備イメージパースです。今後の設計や協議の状況により、内容が変更となる場合があります。

国立駅南口駅前広場イメージパース報告会資料

●令和 8 (2026) 年 6 月

●国⽴市 都市整備部 国⽴駅周辺整備課・道路交通課

●国⽴駅南口駅前広場設計担当 PCKK・EAU・石塚・NOUSAKU・ピオフィルム・WAKU 設計共同体

・代表事業者：パシフィックコンサルタンツ株式会社

・ 構成員：株式会社イー・エー・ユー、株式会社石塚計画デザイン事務所、JUNPEI NOUSAKU ARCHITECTS、株式会社ピオフィルム環境デザイン室、WAKUWORKS 株式会社